

私立短期大学図書館協議会

会報

Bulletin of Junior College Library Association

編集者
菅原春雄
発行者
もり・きよし
発行
私立短期大学図書館協議会

1979. 6 No. 4

昭和54年度総会議事録

日時：昭和54年5月31日 9:30-4:00

場所：日本図書館協会

参加校：58校（うち会員校41）

I 講演会（司会：安部理事）

「短大図書館における教員へのサービスのありかた」をテーマとして、浜田敏郎氏（慶応大学）が教員の立場を考慮しながら全般的な展望を、片山喜八郎氏（国学院大学栃木短大）が図書館側の実状を踏まえて実践的な活動をそれぞれ述べられた後、質疑応答が行なわれた。

II 総会（司会：菅原理事）

1. 開会の挨拶（もり会長）

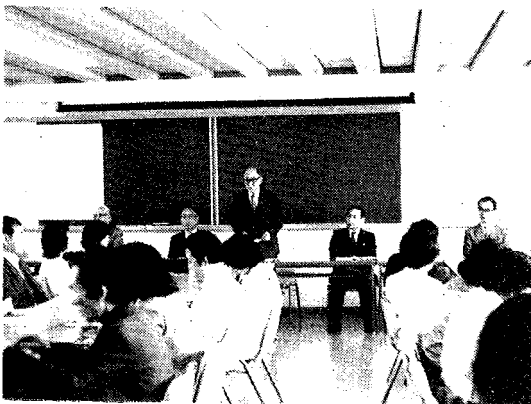
2. 来賓挨拶

- ① 岸田国立国会図書館長
- ② 浜田 J L A 理事長（代理：栗原事務局長）
- ③ 加藤公立短大図書館協議会長

3. 議 事

- ① 会勢・事業報告（安部理事）
 - 会勢（6月25日現在156校）
 - 総会（53年度総会について）

- 会報（第2・3号計600部発行）
- 研究活動（「総覧」発行について）
- 広報活動
- 在京役員会・全国理事会について
- ② 地区協議会報告
 - 北海道地区（坂本理事）
 - 4月27日に設立総会を開催。
 - 東北地区（中村理事）
 - 理事校図書館の新館竣工後、見学を兼ねて第3回協議会を開催予定。
 - 関東・甲信越地区（片山理事）
 - 片山理事が地区の学術雑誌所在・所蔵目録を作成中。
 - 東海・北陸地区（伊藤理事代理：林氏）
 - 5月17日に幹事会を開き、昨年度の事業及び決算報告を行ない、本年度事業計画及び予算案等について協議。
 - 近畿地区（瀬古理事）
 - 1月27日に第4回研修懇談会を開き、併せてNDC8版についての講演会を行なった。6月に幹事会を予定。
 - 中国・四国地区（川崎理事代理：安部理事）
 - 53年8月に広島市内の5館が会合し、日常業務についての情報交換を行なった。
 - 九州地区（村上理事）
 - 53年12月4日に第2回実務研修会を開催。
- ③ 決算および会計監査報告
 - 53年度決算について渡辺幹事が、監査の結果について宮島監査がそれぞれ報告・承認



された。

- ④ 昭和54年度事業計画および予算案（安部理事）

新規事業として「紀要」を年1回刊行する。

- ⑤ 会費値上について

54年度より会費を1館5千円に値上することを承認、決定。

- ⑥ 全図連加盟について

54年度より全国図書館団体連絡会議に加盟する件を承認。

- ⑦ 役員改選

現役員が再選された。

- ⑧ その他

○林氏（愛知淑徳短大）の緊急提案をうけ、本協議会規約第9条第2項の改正について討議し、同項「総会は、会長が招集し、その議長となる」を「総会は、会長が招集し、その議長は総会において選出する」と改めることを承認、可決した。

4. 閉会の挨拶（安部理事）

短大図書館めぐり 第4回

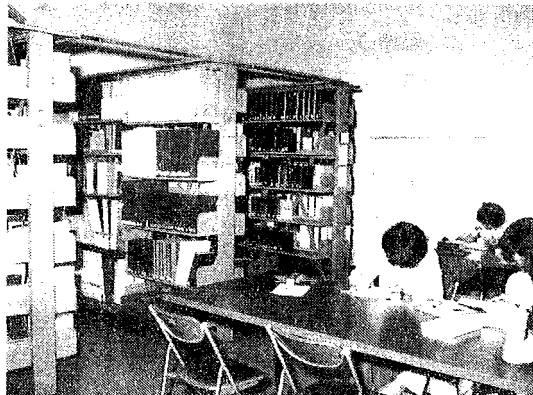
愛知淑徳短期大学附属図書館

本学は、明治38年、県下私学で最も古い高等女学校として発足。昭和36年、愛知淑徳短期大学家政学科を開設。その後、国文学科、英文学科、四年制大学を増設し、学園創立以来70有余年の歴史を誇っています。

図書館は、昭和43年5月、鉄筋3階建、清明館3階に開館。（それまでは高校図書館と併設。）清明館は、学園の一番高台に位置し、談話室にもなっている展望台からの眺望にはすばらしいものがあります。

館内は、閲覧室、書庫（2層）、参考室、館長室、事務室、コピー室からなり、閲覧席数は120席設けてあります。書庫内は開架式を採用し、学生が自由に検索、閲覧することができます。

現在の学生数は1,588名であり、図書館利用学生数は、1日平均約100名、昨年度の年間貸出者数は約7,000名、年間貸出冊数は約9,200冊でした。



蔵書冊数は、約3万5千冊、その他、紀要（約470タイトル）、ビデオ・テープ等もすべて目録化しています。雑誌については、現在のところ、合本製本して台帳に登録してあるもののみ目録化していますが、ゆくゆくは、登録していないものについても目録化する予定です。

学生の卒業論文も仮製本をして、国文学科は主題の五十音順、英文学科は主題のアルファベット順に書庫に配架しており、貸し出しもおこなっています。

また、学園内で発行している出版物を収集、整理して閲覧に供しています。

図書・資料の検索の手段としては、閲覧室に著者名・書名目録が、それぞれ、アルファベット順に配列して備えてあります。雑誌・紀要目録（誌名・著者名・分類）、ビデオ・テープ目録（題名・件名・分類）もあります。淑徳大学図書館（現在、短大とは分離しています）の資料も利用することができるように、書名目録、分類目録の2種類が備えてあります。

新書図書の紹介と図書館の資料を有効に利用していただくために、「収書速報」を年3回発行しています。

図書の整理方法としては、昭和53年度より、日本目録規則新版・予備版、日本十進分類法・新訂8版を基本とした「図書の整理」業務マニュアルによっておこなっています。

以上が本図書館の概略です。職員は、館長（兼任）の他に、事務長・事務職員等5名で、管理運営にあっています。

「九州地区の私立短大図書館」

安部 全 巳

このレポートは、過去2回に亘る私立短大図書館協議会で検討された問題点や私立短大図書館総覧の分析結果ならびにサンプリング面接調査によって直接得られた情報やその他資料を参考として、会報編集担当理事の求めに応じて要約したものである。種々協力いただいた短大図書館には紙上を借りて感謝申し上げる次第であるが、内容の表現に不適切な点があれば責任はすべて筆者にある。あらかじめお許しを願いたい。

現 状

九州地区には、55の私立短大図書館がある。それを県別分布でみると、沖縄4、鹿児島5、宮崎4、大分5、熊本6、長崎7、佐賀3、福岡21とかなり片寄った分布を示しており、4年制大学との共用館を別にすれば実にその51%が北九州地域に集中している。4年制大学との共用館が14館、残りの41館が短大プロパーあるいは中・高との併用館といったところである。

館界に対する意識や理解の度合を仮に組織率とアンケート調査回答率でみるとすれば、JLAの特別会員（機関会員）は55館のうち11館、私立短大図書館協会の加盟館は23館と、組織率はまだまだ低調といわねばならないが、一方調査回答率の方は、日本の図書館（JLA）の場合で85%（全国平均：87%）、私立短大図書館総覧の場合は75%（全国平均：79%）と全国平均なみにはいつている。

さらに、図書館の規模を統計数値によって概観すれば下表のとおりとなる（「日本の図書館1978」による）。

規模の点を平均値からみた限りにおいては、ほぼ全国平均なみの数値を示しているが、実際には1館1館のバラツキがかなり大きく、特に図書館職員

表I

	九州平均	全国平均
図書館職員数(人)	2.1	2.3
蔵書冊数	24,700	25,400
年間購入図書冊数	1,756	1,400
年間館外個人貸出冊数	6,750	4,900
資料購入費(円)	5,169,540	4,882,600

表II

職員数別図書館数

	平均値	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11~
九州	2.1(人)	2*	16	10	6	0	4	1	0	0	0	0
全国	2.3		11	72	97	68	39	21	19	8	3	1

* 専任者不在、兼務者のみのところ。

数においては後進性が顕著である。

課 題

1) 管理運営上の問題点 寄贈図書の評価額、複写料金の決め方およびその徴収方法、マイクロフィルム等AV資料の取扱いなど全国共通した実務の問題点のほか、図書館職員の質や数の問題、予算の僅少なこと、書架スペースの不足や施設設備の極度に遅れている点などが強い声として提言されている。

2) 閲覧・奉仕上の問題点 奉仕活動は、個々の館によってかなりの差がある。したがって九州全域を一括してみることは困難であるが概して低調であるといえよう。

利用教育の面では、入学時30分程度のオリエンテーションを、しかも一堂に集めての伝達で終わらせているところが殆んどであり、ライブラリーツアーを行なっているところは5館、スライドを併用しているところにいたっては僅かに1館といったところである。

図書館出版物についてもみるべきものは少ない。ただし少数ではあるが図書館報として内容のある高水準のものもあり、それらが起爆剤となって他館にも活動の輪が広がることを期待している。

また、4年制大学や中・高との併設による図書館共用上の問題 — 蔵書構成・予算（資産）管理、利用者層と運営・活動の関係など — に悩んでいる短大図書館が九州にも多い。

3) 資料組織上の問題点 資料取扱い基準や整理基準、またそのマニュアル制定など極めて初歩的な問題が現状では殆んど解決できていない。

さらに、目録カードの外注やカード付図書購入ということになれば、地域的なハンディキャップを諸に受けているといってもよい。整理面での合理化は深刻な状況下にある。

4) その他の問題点 問題点を挙げれば際限はないが特徴的なものや顕在している点にしぼって以上紹介した。最後に地方の短大図書館ならではと考えられるものがあるので掲げておこう。「図書館のことについて相談する専門家や図書館が近くにない」という。誠に切実な声であり、今後の緊密な情報交流やより一層の地域連帯の必要性を痛感させられる

問題と受け止めたい。

一部を除く九州地区私立短大図書館の後進性は、地

域的な制約から受ける問題もさることながら、私立短大図書館の現在置かれている状況の縮図が、九州地区の私立短大図書館に集約されてあらわれているといった方が適切ではなからうか。

しかしながら図書館の評価は、建物や施設設備だけで決るものではないと思う。やはり、そこでどんな図書館活動が行なわれているか、どんなサービスが実行できるのか、という内容の問題に帰するので

はあるまいか。そうした意味からすると、九州にも極めて優れたライブラリアンがおり、実に素晴らしい図書館活動を現に展開している私立短大図書館が数館ではあるが存在していることは実に心強い。

すでに与えられた枚数は超えたが、少数派の実像紹介と共に多数派の今後の発展の可能性を期待するところである。

(5 4.6.1 2)

〈会員校の声〉 第4回

『どうしてこんなに図書館だけが立ち遅れているの？ほかの事務部は人員も足りているし、これといった問題も無いのに。』と、就任早々の図書課長から幾度となく問われる。水色のブラインドが揺れて若葉の香りと土の匂いが運ばれてくる。遙かな野辺の光を見ていると、もう年度末の手一杯の切迫感は生じてこないが事務室内の空気はどこか重たげだ。「どうしてだと思われませんか、むしろ私達が聴きたいぐらいです。実務に携っている館員は懸命にその場その場をやって来たし、言うべき時に必要な事は提言して来ました。図書館運営委員会にしても他の部に先駆けて作られ進んでいた時期もあったのです。にもかかわらず、学園が規模拡充期においても、図書館は今日、明日には困らないからと真剣に考えられなかったことが今になって不備な状態を呈しているのです。私達実務者にとっては、立ち遅れていると云われても以前ほどの悲壮感は伴わなくなりました。当然な結果だと静かな怒りを感じています。私達は仕事ひとつひとつに対して去年よりは今年を、と出来るだけの改善や方法の検討もしています。恐らく実務者にとっての仕事上のよろこびは、種々の業務計画での苦労や、手作業そのものの多大な経験から、僅かずつでも確かな判断力や手応えを体得してゆける妙味とも云うべきやりどくを得ていることでしょう。単なる実務者と押しやられながらも、自分達の域では仕事を手放さない限り、まだしも図書館は良くなって行くと言いきかせて、日々仕事にあたっているのです。今の状態が乏しいものとされるならば、その不出来な収穫を痛感するのは私達でなく、貧しい状況に追いやって来た責任ある位置の人達こそが要因をも含め解されている筈なのです。他の事務部が整っているならば、問題を抱えている図書館が、今や遠慮することなく刷新もして行けまし

ょう。私達館員はこの悪しき状態にも余裕をもって、今後の対し方を考えて行きたいと思っています。一事実、館長・部長が置かれていても図書館にはもっと労力も、経費も、構想も必要だということを伝えるべき処には伝えて、少しづつでも難問解消の方向に着手されてゆかないかぎり、あの野辺に注がれている燦々とした陽の光のひとつもめぐってこないのは当然であろう。一とついに眼を伏せてばかりいないでそう応える。たてまえばかりに押し切られていて、いつの間にか自分のほんねすら出せなくなっていたが、ここでは、ほんねをもって述べないと解ってもらえないとの拳句のことである。

このような問題を抱えている本館が、私立短期大学図書館協議会に加盟させてもらってまだ日も浅いが、教授である二人の部長、課長も私短図協の流れを理解し、参加して行くことや学んで行くことについて積極的である。館員はあたかも長い冬が過ぎ去ったかのように密接度の強い私短図協に所属出来てありがたく感じている。そして早や一人前に県下の同じ仲間宣伝しようと考えている。今や手元に送られてきた「私立短期大学図書館総覧」を開くことによって、かつて知り得なかった全国のさまざまな図書館の状態が伝わってくる。おぼろげながらも夫々の場での苦労や意気のようなものがずんずん伝わってくる。未だに開発途上の本館では先の長いことにはなるが、汎く学び取り、深く考えることによって少しずつ短期大学図書館の本来的な機能を吸収させて行きたい。と共に、いつかこうい問われかたをされたらこう応えたいものだと思う。一『どうしてこれほど図書館もうまくいっているの？』『私短図協に入ったからです』一。

仲井 道子(奈良佐保女学院短期大学図書館)

＜地区協議会活動報告＞

○北海道地区

＜北海道地区協議会設立＞

北海道地区協議会の設立については、昨年12月に開かれた昭和53年度の北海道地区短期大学図書館協会の総会において決議されていた。その後「規約案」等、設立についての準備をすすめていたが、さる4月27日（金）に北海道武蔵女子短大図書館において設立総会を開催した。

当日は、短図協の道内加盟館13館のうち9館（委任状4館）が出席して行われ、小樽女子短大の佐藤文義図書館長を議長に選んで議事にはいり、「規約案」の逐条審議と一部修正を加えて「規約」を可決。ついで役員を選出を行ない、つぎのように決定した。（敬称略）

会長・坂本龍三（武蔵女短） 幹事・宮下誠（岩見沢駒沢）、大山綱夫（北星学園女短）、佐藤文義（小樽女短）、村田時康（北海道自動車） 監査・竹田淳照（札幌大谷）、石田公道（静修短大）

また、北海道地区協議会の設立によって、従来まであった前述の北海道地区短期大学図書館協会は、昨年12月におこなわれた決定にしたがって地区協議会に吸収し、発展的に解消された。それだけに今後の地区協議会の活動に大きな期待が寄せられている。

つぎに地区協議会は、今年3月15日に発足した北海道図書館連絡会議（道内各種図書館協議会が参加）に加盟し、異種館との相互協力を積極的にすすめてゆくつもりである。

なお、今年度の研修会（名称未定）は8月下旬に実務を中心として開催する予定である。

○東北地区

＜昭和54年度地区協議会予定＞

昨年（53年10月）日本図書館協会の全国図書館青森大会が開催されたのを機会に、現地において第2回地区協議会を持った。本協議会常任理事の安部益巳先生の御臨席をいただき、あらためて、本協議会設立の趣旨を確認し、地区協議会活動の基盤とすることを申し合わせた。

また、東北地区前理事宮城清先生の提唱された、「地区協議会の存在はその活動内容によって決定す

る」という方針を堅持することを申し合わせた。

引き続き53年12月、「私立短期大学図書館総覧」作成について、協議会長依頼のあったのを機会に東北地区内未加盟校に本協議会への参加を勧奨した。

なお、本年度4月からの新年度活動については、東北地区私立短大図書館職員名簿の作成と、第1回地区協議会の折、会員からの希望が多く、前理事宮城先生からの申し送り事項となっていた「他校図書館見学研修」を実施することにした。

たまたま、理事校（山形女子短期大学）附属図書館が、新館建設工事に入っているため、竣工後、新設図書館を会場として、第3回地区協議会を開催することを予定している。なお、理事校の新図書館設計原案の作成に当っては、短大図書館の中でもっとも機能的な設計と設備を具備していると定評のある東京女子大学短期大学部図書館の設計者である安部益巳先生の御教示ご指導を頂いたものである。

短大図書館建築のあり方、資料（情報）センターとしての機能的なあり方、もっとも効果的な設備・備品等についての研修のチャンスとなれば幸いである。

また、理事校においては職員による「日本目録規則・新版」への切替えについての研修をすすめており、従来の「目録カード」の一部作成・編成替えを実施しているので、この実際をごらんいただき、御批判、御意見をいただければ実務研修ともなり、これもまた幸いである。

○東海・北陸地区

＜54年度第1回幹事会＞

日時：54年5月17日 午後2時～4時

場所：愛知淑徳短期大学

出席校：5校（欠席1校）

議 事

1. 昭和53年度事業報告及び決算報告について
2. 昭和54年度事業計画及び予算案について
3. そ の 他

① 会計監査について

② 幹事校分担業務について

③ 未加入校の研究会などの参加について
以上、事務局よりの報告及び提案について原案通り承認され、会則により正式決定となった。

○近畿地区

＜第3回研修懇談会（図書館見学）＞

日時：53年12月9日 午後1時半～4時

見学図書館：同志社大学図書館・同女子大学図書館
参加校：26校（40名）

同志社大学図書館：関西でも屈指の大規模図書館で、短大図書館には直接には取り入れることはできないが、その施設・設備を通し、図書館サービスの息吹を感じとることができた。

同志社女子大学図書館：建物が主に地階にあることで館界に話題を呼んだもの。土地が狭いという悩みを持つ短大が多いので、見学者の関心も主にそこに集中した。

＜第4回研修懇談会＞

日時：昭和54年1月27日 午後1時～4時半

会場：大谷女子短期大学

参加校：29校（36名）

①総会 近畿地区協議会会則作成。会計報告。役員校選出（会長校：帝塚山学院短大、幹事校：梅花短大、大谷女子短大、会計監査校：大阪女子学園短大）

②講演「NDC8版について」

講師：帝塚山大学助教授 石塚栄二先生

要旨：NDC7版と8版との変更項目の一覧が配布され、主な変更についての説明があり、また、資料費は倍増しているにもかかわらず、職員は2～3名で変化なしという厳しい条件におかれている短大図書館において、NDC8版に対し、どのように対処してゆくか、その具体的な方法について話された。7版を基礎にして部分的に8版をとり入れることを勧められ、例えば情報科学等7版では扱いにくい主題は8版を採用した方がよい、またそのほか、冊数の少ない項目や、多くてもこれからも大幅に増えると思われる項目に限った方がよい等、負担の少ない方法で解決するのがよいと述べられた。

○九州地区

＜第2回実務研究会＞

日時：昭和53年12月4日 12時30分～17時

会場：西南女学院短大

出席者：12校 20名

理事館館長峯崎康忠教授の司会により、新規加入館（別府大学短大部、熊本音楽短大）の紹介があり、報告事項が下記のとおりなされた。

- 1) 私立短大図書館協議会53年度総会（西南女学院 村上） 会報第3号掲載
- 2) 九州地区関係（西南女学院 村上）
 - a、53年12月4日現在、加盟館18校 未加盟館34校
 - b、今後在京役員会議事録を地区理事館がコピーして加盟館に送る。
 - c、52年度地区交付金として17,000円が送付された。
- 3) 最近の図書館界の動向（別府大学短大部副館長安部）
 - a、在京役員会について
 1. 私立短大図書館総覧発行
 2. 会報3号発行12月下旬
 - b、国立国会図書館30周年記念国際シンポジウムについて
 - c、全国図書館連盟結成について

○協議事項

- 1) 次期理事館選出の件
 - a、地区協議会会則案を作成し、54年度より地区協議会を発足する。その時点で理事館を選出する。
 - b、地区協議会の経費は交付金で運営する。
 - c、各県より1校づつ幹事館を選ぶ。
 - d、上記の件を53年度末までに加盟館に計り、新年度に紙上総会を開催する。

○実務に関する承合および研究

- 1) 寄贈図書の評価評価について
- 2) 複写料金および徴収方法について
- 3) 図書購入時の価格値引きについて
- 4) マイクロ資料について
- 5) 図書館オリエンテーション実施の方法
- 6) 図書館刊行物について
- 7) 併設図書館の問題点について

研究会以後の活動としては、地区協議会会則案を作成し、各加盟館に検討していただく。夏休み前に紙上にて54年度総会を開催して会則をきめ、次期理事館を選出する予定です。

<事務局報告>

53年度第7回 在京役員会記録

昭和53年11月25日 於：日本図書館協会

I 報告事項

- 1) 新規加盟館(2館)
- 2) 東海・北陸地区協議会における第一回実務研究会開催の件、および会則決定の件

II 協議事項

- 1) 会報3号発行の件
- 2) 私立短大図書館総覧作成のための調査項目決定の件
- 3) 地区協議会への活動振興費交付の件

第8回 在京役員会記録

昭和53年12月21日 於：東京女子大学短大部

I 報告事項

- 1) 九州地区協議会開催の件
- 2) 会報3号刊行・配布の件
- 3) 私立短大図書館総覧の調査票配布の件

II 協議事項

- 1) J L A短大図書館部会に対する助成金申請の件
- 2) 昭和54年度総大会の開催日時等の件
- 3) 私立短大図書館総覧の発行方法の件

第9回 在京役員会記録

昭和54年1月25日 於：青葉学園短大

I 報告事項

- 1) 図書館関係団体からの寄贈資料増加の件
- 2) 私立短大図書館総覧の調査票の回収状況の件

II 協議事項

- 1) 昭和54年度総大会の開催日時・会場・講演内容等に関する件
- 2) J L A評議員選挙の件

第10回 在京役員会記録

昭和54年2月27日 於：青葉学園短大

I 報告事項

- 1) 新規加盟館(3館)
- 2) 近畿地区協議会における会則および新役員決定の件
- 3) 私立短大図書館総覧の調査票回収状況の件
- 4) J L A評議員選挙の件

II 協議事項

- 1) 昭和54年度総大会における講演会の講師の件
- 2) 私立短大図書館総覧刊行経費の件

第11回 在京役員会記録

昭和54年3月24日 於：共立女子短大

I 報告事項

- 1) 私立短大図書館総覧発刊予定の件
- 2) 会勢の件

II 協議事項

- 1) 昭和54年度総大会の日程・講師・講演テーマ等の最終決定の件
- 2) 昭和54年度事業計画の件

昭和54年度第1回 在京役員会記録

昭和54年4月7日 於：青葉学園短大

I 報告事項

- 1) 新規加盟館(1館)
- 2) 私立短大図書館総覧完成の件

II 協議事項

- 1) 昭和54年度事業計画および予算案の件
- 2) 昭和54年度総大会運営の件
- 3) 私立短大図書館総覧の販売PRの件

第2回 在京役員会記録

昭和54年5月28日 於：日本図書館協会

I 報告事項

- 1) 新加盟館(12館)
- 2) 私立短大図書館総覧の配布状況の件
- 3) 昭和54年度総大会の参加申込状況の件

II 協議事項

- 1) 昭和54年度事業計画および予算案の件
- 2) 全図連加盟の件

<地区別加盟館数>

昭和54年6月20日現在

北海道	13	東海・北陸	17
東北	10	近畿	35
関東甲信越	56	中国・四国	15
(うち東京)	29)	九州	23
		(計	169館)

＜昭和53年度 決算＞

I 収入の部

○ 前期繰越金	277,364円
○ 会費 (131校 × 3,000円)	393,000円
○ 雑収入 (預金利息)	2,707円
○ 寄付金 (JLA短大図書館部会 より「総覧」刊行補助として。 総覧刊行特別会計へ繰り入れ)	30,000円
○ 収入合計	703,071円

II 支出の部

○ 事務費	35,120円								
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">事務用消耗品</td> <td style="text-align: right;">570円</td> </tr> <tr> <td> " 通信費</td> <td style="text-align: right;">11,000円</td> </tr> <tr> <td> 会報郵送費</td> <td style="text-align: right;">21,550円</td> </tr> <tr> <td> 事務用雑費</td> <td style="text-align: right;">2,000円</td> </tr> </table>	事務用消耗品	570円	" 通信費	11,000円	会報郵送費	21,550円	事務用雑費	2,000円	
事務用消耗品	570円								
" 通信費	11,000円								
会報郵送費	21,550円								
事務用雑費	2,000円								
○ 会議費 (全国理事会)	6,500円								
○ 謝金 (総会講師車代)	10,000円								
○ 事業費 (会報2・3号刊行)	69,000円								
○ 交付金	263,000円								
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">昭和52年度</td> <td style="text-align: right;">118,000円</td> </tr> <tr> <td>昭和53年度</td> <td style="text-align: right;">145,000円</td> </tr> </table>	昭和52年度	118,000円	昭和53年度	145,000円					
昭和52年度	118,000円								
昭和53年度	145,000円								
○ 総覧刊行特別会計へ繰り入れ	65,500円								
○ 次期繰越金	253,951円								
○ 支出合計	703,071円								

○ 雑収入 (預金利息)	3,000円				
○ 広告収入	730,000円				
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">紀要掲載分</td> <td style="text-align: right;">80,000円</td> </tr> <tr> <td> 総覧 " (総覧刊行特別会計へ繰り入れ)</td> <td style="text-align: right;">650,000円</td> </tr> </table>	紀要掲載分	80,000円	総覧 " (総覧刊行特別会計へ繰り入れ)	650,000円	
紀要掲載分	80,000円				
総覧 " (総覧刊行特別会計へ繰り入れ)	650,000円				
○ 収入合計	1,886,951円				

II 支出の部

○ 事務費													
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">事務用消耗品費</td> <td style="text-align: right;">10,000円</td> </tr> <tr> <td>通信・交通連絡費</td> <td style="text-align: right;">155,000円</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">事務用通信費</td> <td style="text-align: right;">35,000円</td> </tr> <tr> <td> 会報郵送費</td> <td style="text-align: right;">30,000円</td> </tr> <tr> <td> 紀要 " (在京役員会交通費)</td> <td style="text-align: right;">55,000円</td> </tr> </table> </td> <td></td> </tr> </table>	事務用消耗品費	10,000円	通信・交通連絡費	155,000円	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">事務用通信費</td> <td style="text-align: right;">35,000円</td> </tr> <tr> <td> 会報郵送費</td> <td style="text-align: right;">30,000円</td> </tr> <tr> <td> 紀要 " (在京役員会交通費)</td> <td style="text-align: right;">55,000円</td> </tr> </table>	事務用通信費	35,000円	会報郵送費	30,000円	紀要 " (在京役員会交通費)	55,000円		
事務用消耗品費	10,000円												
通信・交通連絡費	155,000円												
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">事務用通信費</td> <td style="text-align: right;">35,000円</td> </tr> <tr> <td> 会報郵送費</td> <td style="text-align: right;">30,000円</td> </tr> <tr> <td> 紀要 " (在京役員会交通費)</td> <td style="text-align: right;">55,000円</td> </tr> </table>	事務用通信費	35,000円	会報郵送費	30,000円	紀要 " (在京役員会交通費)	55,000円							
事務用通信費	35,000円												
会報郵送費	30,000円												
紀要 " (在京役員会交通費)	55,000円												
○ 会議費													
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">全国理事会</td> <td style="text-align: right;">24,000円</td> </tr> <tr> <td> (20人 × 1200)</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 在京役員会</td> <td style="text-align: right;">22,000円</td> </tr> <tr> <td> (11人 × 200 × 10回)</td> <td></td> </tr> </table>	全国理事会	24,000円	(20人 × 1200)		在京役員会	22,000円	(11人 × 200 × 10回)						
全国理事会	24,000円												
(20人 × 1200)													
在京役員会	22,000円												
(11人 × 200 × 10回)													
○ 交付金 (180校 × 2,000)	360,000円												
○ 負担金 (全図連加盟負担金)	10,000円												
○ 事業費													
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">総大会開催費</td> <td style="text-align: right;">100,000円</td> </tr> <tr> <td> 会報刊行費 (2回)</td> <td style="text-align: right;">80,000円</td> </tr> <tr> <td> 紀要刊行費</td> <td style="text-align: right;">180,000円</td> </tr> <tr> <td> 研究活動費</td> <td style="text-align: right;">90,000円</td> </tr> </table>	総大会開催費	100,000円	会報刊行費 (2回)	80,000円	紀要刊行費	180,000円	研究活動費	90,000円					
総大会開催費	100,000円												
会報刊行費 (2回)	80,000円												
紀要刊行費	180,000円												
研究活動費	90,000円												
○ 総覧刊行特別会計へ繰り入れ	800,000円												
○ 予備費	50,000円												
○ 雑費	5,951円												
○ 支出合計	1,886,951円												

＜昭和54年度 予算＞

I 収入の部

○ 前期繰越金	253,951円
○ 会費 (180校 × 5,000)	900,000円

御 案 内

＜昭和54年度 私立短期大学図書館担当者研修会＞

期日：昭和54年7月27日～30日

会場：嵯峨美術短期大学 (京都)

テーマ：図書館利用教育と司書の専門性について

＜昭和54年度 全国図書館大会＞

期日：昭和54年10月25日～27日

場所：東京

「私立短期大学図書館総覧」刊行について

皆様のご協力で総覧が出来ました。337館それぞれの顔が読み取れて特色を知ることができます。

短大図書館の活動内容はどのようであるかを知るために先ず実態を調べました。見開き2頁の中に実態把握に必要な事項は何であるかと設問作成には検討を重ねましたが、出来上ってみますと設問が不確かであったために記入しにくかった個所が見つかったり、出版物の交換の有無の欄もほしかった、また大学と併設あるいは中・高部との併設の場合索引の校名に印を付けたら便利であったなど後から気付いた点も多々あります。

とはいえ短大の実態を知り得る唯一の基礎資料です。一館一館の内容は諸々の示唆を与えています。情報の交換、相互協力、問い合わせなどに使っていきましょう。

総覧を分析して短大図書館の実状を浮き彫りにして、少い館員数、少い予算、狭いスペース等々の問題を抱えながら、いかにして資料を充実させていくか、どのようにしたら利用者の要求に答えられる図書館にすることができるかなどの具体的な解決の糸口を見出したいと思っています。

ご感想、ご意見、よい知恵をお寄せ下さい。

＜私立短期大学図書館協議会役員＞

昭和54年度総会において、新役員が下記の通り選出されました。

会 長	もり・きよし(青葉学園短大)	地方選出理事	片山喜八郎(国学院大学栃木短大)
会長推薦理事			伊藤 久祐(愛知淑徳短大)
常任理事(事務総括、会計、渉外担当)	安部 紘巳(別府大学短大部)		瀬古 輝子(帝塚山学院短大)
理 事(連絡、広報、記録担当)	網本 正巳(調布学園女子短大)		川崎 文策(鈴峯女子短大)
理 事(研究活動担当)	芝原 翠(東洋英和女学院短大)	監 査	村上 博子(西南女学院短大)
理 事(会報編集担当)	菅原 春雄(文教大学女子短大部)		宮島 敬久(共立女子大学短大)
地方選出理事	坂本 龍三(北海道武蔵女子短大)	幹 事	柴田さち子(立教女学院短大)
	中村 泰正(山形女子短大)		森 康子(青葉学園短大)会長校
			渡辺 敏一(東京女子大学短大部)事務局
			青木 忠洋(文教大学女子短大部)会報校
			杉山 敏子(フェリス女学院短大)研究校

会 費 納 入 の お 願 い

私立短図協加盟館各位におかれましては、昭和54年度会費を下記の要領で御納め下さるようお願いいたします。尚、払込みは直接事務局宛に現金書留又は銀行口座振込でお願いいたします。

払込先・事務局：郵便番号181 東京都三鷹市牟礼4-3-1

東京女子大学短期大学図書館内 私立短期大学図書館協議会事務局

払 込 口 座：富士銀行吉祥寺支店 普通預金口座246-889887 私立短期大学図書館協議会

54年度会費：5,000円

払 込 期 限：9月末日

*会費については、54年度総会(5月31日)において年額5,000円に決定いたしました。

*特にお申し出のない場合は、経費節減のため、領収証の発行をお許し願います。

私立短期大学図書館協議会新加盟館（第3号以下追加）昭和54年6月20日現在

短期大学図書館名	〒	住 所	連絡責任職・氏名
＜北海道＞			
北海道自動車短大	062	札幌市豊平区中の島二条6-1-35	図書係長 金子 隆三
北星学園女子短大	064	札幌市中央区南五条西17丁目	図書館長 大山 綱夫
＜関東・甲信越＞			
関東短大	374	群馬県館林市成島625	立川 正辰
十文字学園女子短大	352	新座市菅沢2-1-28	司 書 黒羽 久子
日本基督教短大	281	千葉市小深町90-3	司 書 西田 清子
昭和学院短大	272	市川市東菅野2-17-1	司 書 大野 育夫
女子聖学院短大	362	上尾市戸崎1-1	上沢田 浩
東京純心女子	192	八王寺市滝山町2-600	司 書 浅田美加子
戸板女子短大	105	港区芝3-38-14	司 書 工藤加代子
拓殖大学短大	112	文京区小日向3-4-14	森島 和美
桜美林短大	194-02	町田市常盤町3758	伊東紀世子
中央商科短大	104	中央区新川1-28-5	図書係 根本 孝
＜東海・北陸＞			
仁愛女子短大	910-01	福井市天池町	司 書 加藤 人己
金城短大	924	松任市笠間町1200	館長補佐 北野 良子
安城学園女子短大	444	愛知県岡崎市舳越町上川成28	司 書 石田はつみ
東邦学園短大	465	名古屋市名東区平和ケ丘3-11	図書館長 杉本 公義
＜近 畿＞			
明治鍼灸短大	629-03	京都府船井郡日吉町保野田ヒノ谷6	中村 清
大阪青山短大	562	大阪府箕面市新稲2-11-1	井沢 房男
関西外国語短大	573	枚方市小倉333	課 長 宮原 賢吾
姫路学院女子短大	679-22	兵庫県神崎郡福崎町高岡	司 書 阪本ちずる
中国短大	701-01	岡山市庭瀬83	事務職員 野波 英雄
＜中国・四国＞			
四国女子大学短大	771-11	徳島市応神町古川	館 長 坂東 文雄
桃山学院短大	792	愛媛県新居浜市上原2-8-1	司 書 菅 さつき
＜九 州＞			
近畿大学女子短大	820	福岡県飯塚市菰田東1-5-30	丹 節子
筑紫女学院短大	818-01	福岡県筑紫郡大宰府町大字大宰府宇石穴	課 長 貝原 芳子
九州大谷短大	833	福岡県筑後市蔵敷大字大谷	司 書 秋山 桂子
佐賀女子短大	840	佐賀市本庄町大字本庄1313	司 書 竹下 忍
熊本短大	862	熊本市大江2-5-1	事務長 小郷 三郎